

被爆地ヒロシマが被曝を拒否する
— 過去は変えられないが未来は変えられる —
伊方原発運転差止広島裁判

2021
2
3
仮処分
水

伊方原発3号機運転差止 新規仮処分
第3回審尋期日 **非公開**
放射能汚染から広島、瀬戸内海を守る闘いです

2021年2月3日当日スケジュール

- | | |
|--------|-----------------------------|
| 13:45 | 広島地裁前で記録撮影 |
| 14:00 | 広島地裁：第3回審尋開始 非公開 |
| 14:30頃 | 広島地裁：審尋終了の見込み |
| 15:00頃 | 審尋終了次第、ZOOMにて
記者会見・報告会開始 |
| 16:30頃 | 終了予定 |

2021
5
13
仮処分
木
次回期日のお知らせ
第4回審尋期日 **非公開**
場所：広島地方裁判所
14:00 開始



【主催】伊方原発広島裁判事務局
〒733-0012 広島市西区中広町 2-21-22-203
E-mail : saiban_office@hiroshima-net.org
URL : https://saiban.hiroshima-net.org

090-7372-4608



報告会はぜひ ZOOMで遠隔参加を

新型コロナ感染拡大に伴う広島県の緊急事態対応に鑑み、記者会見・報告会はZOOMのみの開催になります。

参加ご希望の方は下記メールアドレスにてお申し込みください。

hek@hiroshima-net.org



お申し込みの際、件名を「報告会参加」とし、お名前と所在地（県・市など）をご連絡ください。後ほどURLやパスワードなどをお送りします。

申込締切日：2021年2月1日（月）

福島第一原発事故から10年を迎えます。
2011年3月11日19:03発出の
原子力緊急事態宣言は現在も発令中です。



650ガルでは 人の命は守れない



愛媛県に所在する伊方原発。左から1号機、2号機、3号機

原発には高度の安全性が求められます。地震列島日本では、高度の安全性があるということは、高度の耐震性が求められるということです。

650ガルは伊方原発の基準地震動

「基準地震動」は日本の原発の耐震設計の基準で、伊方原発の基準地震動は650ガルです。

「ガル」は地震動の大きさを加速度で表す単位で、この数値が大きくなるほど、揺れが大きいことを示します。

原発の耐震重要施設は「基準地震動による地震力に対して安全性が損なわれるおそれがないものでなければならない」（実用発電用原子炉及びその附属施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則 第4条3項）とされています。つまり、「伊方原発の耐震重要施設は650ガルの地震動に対して安全性が損なわれるおそれがないように設計されている」ということなのです。

では、650ガルは、伊方原発の耐震設計基準として十分な基準なのでしょうか？650ガルで本当に人の命が守れるのでしょうか？

続きは裏面をご覧ください

650ガルでは人の命は守れない

表面より続き

実際の最大地震動や一般住宅の耐震基準と比べてみると

実際に日本で起きている地震の最大地震動を見てみましょう。1995年の阪神淡路大震災をきっかけとして、全国に強震観測網（K-NET）が整備されました。そのK-NETなどの観測データによれば、2000年から2020年の間に、最大地震動1000ガル程度以上の地震は18例あります。2008年岩手・宮城内陸地震では4022ガル、2011年東北地方太平洋沖地震では2933ガル、2016年熊本地震では1791ガルの最大地震動を観測しました。日本では最大地震動1000ガル以上の地震は珍しくないのです。これに比べて、650ガルという伊方原発の耐震設計基準はあまりにも低過ぎる印象を受けます。

2016年熊本地震の最大地震動は1791ガル



【写真説明】熊本地震で倒壊した家屋（益城町）
（出典：wikipedia「熊本地震（2016年）」）

ここで一般住宅の耐震基準と比べてみましょう。一般建築の場合は、耐震基準は建築基準法で定められています。大震災で深刻な被害が発生するたびに改正強化されてきました。そして1981年の新耐震基準では「震度6強から7程度の大規模地震でも全壊・倒壊は免れる」強さにすることが義務づけられました。震度6強～7でも全壊・倒壊を防いで「人命を守る」ときに重点がおかれたのです。

建築基準法は「人命第一」 全国一律 1500ガル程度

とにかく家さえ倒壊しなければ
命が助かる可能性が上がる

震度6強～7の地震はガルに直せば1500ガル程度、つまり一般住宅は1500ガル程度の地震でも人命を守ることができるということです。この一般住宅の耐震基準に比べて、650ガルという伊方原発の耐震基準はあまりにも低いと言えます。

「地盤条件」は理由にならない

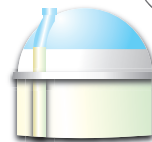
では、四国電力は何を根拠に伊方原発の基準地震動650ガルを主張しているのでしょうか？

一般住宅の耐震性に比べて伊方原発の基準地震動が「低くてよい」理由として、四国電力は伊方原発の重要施設が堅い岩盤の上に直接設置されているという地盤条件を主張します。しかし例えば、「佐田岬半島沿岸活断層の調査が不十分」と2020年1月の広島高裁仮処分決定で指摘されたように、起こり得る地震の震源や大きさは容易に分かるものではありません。ですから伊方原発の地盤条件は、原発敷地が強い地震に襲われないことを担保する理由にはなりません。

伊方原発3号機 650ガル

伊方町役場は地盤が緩いけど伊方原発は固い岩盤の上だから耐震基準は低くて大丈夫

すでに「想定外」の
言いわけがみえる...



地震の震源や大きさはわからない。
予知や予測もできない。（最新の科学的知見）

地盤条件を理由に、一般住宅よりも原発の耐震性が低くてもよいというのはおかしい論理です。一般住宅に求められる耐震性は、地盤が軟らかかろうと堅かろうと全国一律です。

「止める、冷やす、閉じ込める」が 守られなければ人の命は守れない

また、住宅は全壊・倒壊さえしなければ人命は守られますが、**原発では建屋が崩壊しないだけでなく、「止める、冷やす、閉じ込める」を担う耐震重要設備の安全機能が損なわれないことが求められます。**震度6強～7の地震あるいは日本で観測された最大の地震動に対して、一般住宅が倒壊しないことが求められるように、原発は「止める、冷やす、閉じ込める」を担う耐震重要設備の安全機能が損なわれないことが求められるのです。もしそうでなければ、環境に大量の放射能が放出されることになり、人の命は守れません。伊方原発の基準地震動が650ガルしかないことは、とてつもなく異常です。650ガルは人の命を守る耐震基準とは到底言えません。



原発の場合
放射能を出さない
＝
人命を守る